

研究テーマ	<p>[IV 人や作品との対話やかかわりを大切にした造形教育を考える]</p> <p>友だちの作品からのヒントを活かしておもちゃを作り，作品を見たり，遊んだりして友だちの作品のよさに気付く鑑賞指導</p> <p>—小学1年生「おさんぽトコトコ」の実践を通して—</p>
-------	--

稲敷市立鳩崎小学校 教諭 山本 京子

1 研究テーマについて

小学校学習指導要領解説図画工作編では、「表現と鑑賞は本来一体であり，相互に関連して働き合うことで児童の資質や能力を培うことができる。」(第4章指導計画の作成と内容の取扱い)，また「児童が造形活動の中で自然に自分や友人の作品を見ることも鑑賞としてとらえるなど，鑑賞活動を幅広くとらえる必要がある。」(第2章図画工作科の目標及び内容)とある。

1年生の子どもたちは図画工作が大好きである。絵を描くことを好まない児童も工作は大好きである。材料をつないだり，切ったり，貼ったり，飾ったりしていくうちに，どんどん自分のイメージしていた作品が広がっていく。そんな楽しさは他の学習にはない喜びであり，楽しさである。今回，取り上げた題材は動くおもちゃを作る活動である。簡単な仕組みでおもしろい動きをするおもちゃ作りだが，自分一人だけで作っては，限られた楽しみでとどまり，何の気付きも広がりも見られないままで終わってしまう。けれども，友だちと一緒に活動をすることにより，自分では考え付かないことを目にしたり，形や色づかいのおもしろさを知ったり，様々なことに気付くことができる。自分にはないものを見つけ，考え，自分の作品の中に取り入れていく。そして，徐々に工夫が加わったもの，初めの形とは違うものへと広がっていく。このように，学習過程での鑑賞を通して，表現の工夫，形のおもしろさ，色の美しさ，動きの楽しさなどに気付き，自分の作品に取り入れることによって，見方や感じ方が広がっていくのではないかと考え，本研究テーマを設定した。

2 実践例

(1) 題材名 おさんぽトコトコ

(2) 題材の目標

転がる材料を使って楽しい飾りをつけたおもちゃを作り，友だちと遊びながら，作品のよさや工夫を感じ取ることができる。

(3) 題材について

本題材は，楽しく転がるおもちゃを作るという目的に沿って工作で表す活動である。好きな色を選んだり，自分が表したい形を見つけたり，動く仕組みについて考えて表したりと，楽しい要素がいくつも加わっているので児童は意欲的に取り組めることと思う。よく転がる円柱状の身近素材を中心の材料とし，そこに上下動をする仕組みを加えて動くおもちゃを作るという内容である。仕組みを理解すれば簡単に作れて，楽しく遊べる，1年生にとって最適な工作といえる。

本学級の児童8名の内，7名が「図工が大好き」と答えているだけあって，題材名と作品のあらましを聞いているうちに，自分で表現したいものがおおよそ決まり，作業開始と共に意欲的に取り組むといった様子である。工作は大好きだが，自分で作りたいものをどのような手順で，どのように取り組んだらよいか迷ってしまい，途中で意欲が途切れてしまう児童が2名見られる。「図工が少し好き」と答える1名は，何も作りたいものがないについては黙ってみんなの取り組みを見ていることが多く，いくつかのアドバイスを聞き，自分が納得できるものが見つかったと

きにやっと取り掛かるといった様子である。

本題材では、身の回りにある転がる素材が大事な材料となる。乾電池や空き缶、茶筒などを使うことにした。上下動の材料としては竹ひごとストロー、飾りを作るものとしては色の付いている厚紙（表裏で色が違うもの）を使わせ、表現の幅が広がるようにした。二つの飾りは回転しながら前に進むのだが、それらが上下しながら動くので、どのような組み合わせにするのかも楽しさのポイントとなる。「犬と猫」「蝶と花」「親子」「兄弟」「友だち」など、自由に組み合わせを選ぶことができるので、思い思いに発想を広げられると考えた。初めに仕組みをみんなで考え、基本が理解できたら、個々の工夫を活かして、自由にのびのびと活動させたい。また、回転の基となる円柱状のものの中に、重りを加えさせ、動きの変化も楽しませたい。作品が仕上がった後にも鑑賞をするが、製作途中でも友だちの作品のよいところを見つけたり、おもしろさに気付いたりしたことを随時紹介させ、作っていく上でのヒントとさせたい。また、何を表現したらよいか決まらない児童のきっかけ作りとしても、このような制作途中での鑑賞を大事にしていきたい。さらに、仕上がった作品は、みんなで遊びそれぞれの楽しさや工夫を見つけ、相手に伝え、次への意欲へとつなげていきたい。

(4) 評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・動きの楽しさに関心をもち、自分の表したいものを転がる材料と厚紙で作ることを楽しもうとしている。	・自分の表したいものを思い付いたり、作りながら新しい形を考えたりしている。	・楽しい飾りを作るために切り方や接着の仕方を工夫している。	・友だちの作品を見たり、遊んだりしながら、作品の楽しさや工夫に気付いている。

(5) 指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学 習 内 容・活 動	評 価 規 準・【評価方法】
第1次 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の作品を見て、動きの特徴やおもしろさを知り、作り方について考えてみる。 ・動く仕組みを作り、しっかり動くように調整したり、ぐらつかないようにきちんと接着したりする。 ・自分が思い付いたことをもとに飾りを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の楽しさに関心をもち、おもしろいところを見つけ、みんなに紹介することができる。 <p style="text-align: right;">関 【観察・発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹ひごを正しい位置にしっかり接着することができる。 <p style="text-align: right;">技【観察・作品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいものを作り、アイデアを加えてさらに楽しいものに工夫することができる。 <p style="text-align: right;">発 鑑【観察・作品・対話】</p>
第2次 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品を見たり、一緒に遊んだりして、よいところやおもしろところなど感じたことを伝える。(本時) 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品のおもしろさや工夫に気付いている。 <p style="text-align: right;">鑑【観察・作品カード・よかったよカード】</p>

(6) 本時の展開

① 目標 友だちの作品を見たり、一緒に遊んだりして、よいところやおもしろいところを伝えることができる。

② 準備・資料

作品カード、感想カード「よかったよカード」

③ 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	指 導 上 の 留 意 点 (○ 評 価)
<p>1 本時の学習のめあてや活動内容をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ともだちの さくひんの よいところを見つけよう。</p> </div> <p>2 「おさんぽトコトコ」で遊ぶ。</p> <p>3 作品の発表をし、相互に鑑賞し合う。</p> <p>(1) 自分の作品を紹介し、動かしてみせる。</p> <p>(2) 友だちの発表を見て、よかったところをカードに書いて渡す。</p> <p>3 自分が見つけた作品のよいところを発表する。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶ場所を確保するために、机は前に運んで広いスペースを作っておく。 ・みんなで楽しく遊ぶことを通して、友だちの作品を間近に見ながらおもしろいところや工夫を見つけさせる。 ・みんなと遊ぶことができない児童に声をかけ、一緒に楽しく参加できるように支援する。 ○作品のおもしろさを味わおうとしている。(観察) ・一列に並んで座らせ、発表する人の作品の動きがよく見えるようにする。動きのよさが現れないときは助言をしたり、手助けをしたりして、作品のよさが伝わるようにする。 ・発表を見ている児童には、友だちの作品のよいところを見つけられるように支援する。 ・よいところを見つけて伝える活動であることを強調して、取り組ませるようにする。 ・簡単な言葉でもいいから、必ず全員に書いてあげられるように支援する。 ○感じたことを簡単な文で書いたりして、友だちの作品のおもしろさや工夫に気付いている。(観察, ワークシート) ・友だちの作品のよさを発表させることによって、自分が見つけられなかったよさにも気付くことができるようにする。 ・それぞれの工夫や頑張りをみんなの前で認め合えるようにする。 ・本時のまとめをし、友だちからもらった「よかったねカード」を紹介カードの裏に貼らせ、今後の学習の励みになるようにする。

3 学習の実際

(1) 材料

転がるものということで、ラップの芯、乾電池、茶筒、空き缶などを集めた。多めに集めたので、自分の使いたいものを自由に選ぶことができた。転がしてみても、「これ、よく転がるよ。」「こっちはちょっと重いけど遠くまで転がるよ。」と自分が使いたい材料を見極める様子も見られた。作り進めた後、「これに竹ひご付けるの難しいから、お茶の缶の方にしよう。」「竹ひご、うまく付けたね。ぼくもお茶の缶にしよう。」と、自分の思い描いたものとのずれを感じて、材料を替えている児童もいた。つまり、友だちの活動を見て、そのよさを感じたから、別の材料を選んだということがいえる。ここでは、友だちの作品のよさに気付くという鑑賞がされていた。

竹ひごを用意した。今までは長くても竹串だったので、竹ひごを見た瞬間「ええ、長〜い。」「ねえ、ねえ、すごいよね。」と、その長さに驚いていた。いろいろな材料を使うことにより、今後の工作においても、多様な材料の中から最も適切なものを選ぶことができるようになるだろう。これは材料を見極めることへ広がっていくと考える。

表裏に異なる色が付いている厚紙を飾り作りに使った。普段は画用紙か色画用紙を使っている。色画用紙では薄すぎて、紙1枚で飾りを立たせることは難しい。白い画用紙に色を塗って作っても、仕上がりの美しさには限界がある。また、児童の実態から考えても、白い画用紙で作ったものに色を塗ってもきれいな作品に仕上げるのは難しいと思った。そこで、表裏にパステルカラーの異なる色が付いている厚紙を用いることにした。初めて、このきれいな紙を使ったので、「わあ、きれい。どの色にしよう。」「わたし、ピンクでうさぎを作ろうかな。」と意欲が一段と高まった。そして、自分が作っていくものに合わせて思い思いの色づかいをすることができた。

(2) 教師の作った見本

1年生の場合、どのような学習をするのか説明を聞いただけでは分かりにくい部分がたくさんあるので、工作の学習をするときは見本を作って提示することが多い。見本を見せただけで、一目でこれから作っていくものの大まかな様子が分かり、実際に動かしてみせることによって、その楽しさを感じることができる。見本を見せると「すご〜い。」「追いかけてこしてる。」「犬と骨だ。」「花とちょうちょも、おもしろいね。」と大喜びであった。この導入の活動も、一年生にとって作品の鑑賞といえるのではないだろうか。工夫しているところ、動く仕組み、色の使い方など、よさを見出すことができる。見本を見ているうちに、どのような飾りにするかイメージも膨む。留意している点はあまり上手過ぎないこと、けれどもその学習で取り入れてほしい技能を使ったりすることだ。「自分にもできそうだ。」と感ぜられるものにするすることでやる気を起こさせることができる。今回は2種類の見本を用意した。転がる材料はラップの芯を切ったものと茶筒である。茶筒は直径が長いので動きが大きかったため、茶筒の方がおもしろいと感じたかもしれない。茶筒で作った児童は7人だった。それぞれの飾りにも違いを持たせ、立体のものと平面のものにした。自分の技能や興味に合わせて無理なく作っていけるよう配慮した。

(3) 飾り作り

飾り作りにおいても、「わたしね。ワンちゃんのご飯も作ったんだ。」「ぼくは、1枚で作ったんだけど、倒れないよ。」といった友だちの言葉を聞いたり、友だちの作品を見たりして、友だちのよさを取り入れ、自分の作品の中に活かしている様子が見られた。「楽しそうな作品だな。」と感じるだけのときもあれば、そのよさからヒントを得て、友だちの真似ではない、自分のものとした表現ができることもあれば、ただの模倣でとどまることもある。でも、これらの活動は、制作過程の友だちの作品に目を向け、楽しさや工夫を発見したからこそ現れた行為である。このようなことも、1年生にとっての鑑賞といえる。

(4) 動きの変化

作品の中に、ある程度重さのある転がるものを入れることによって、動きに変化をもたせることができるので、予め大きいビー玉を用意しておいた。ところが、発想が柔軟で身の回りのものから遊びを見つけるのが上手なA男が、茶筒の中に材料として用意しておいた電池を入れ、「おもしろいよ、みんな見て。」と言い出した。ゴロン、ゴロンと、ときどき止まりながら、転がっていくおもしろい動きを発見したのだった。「A男さん、すご〜い。」「ぼくもやりたい。」と賞賛の声がたくさん聞こえた。教師の提案を待つことなく、児童が「おもしろい動き」を発見し、みんなに紹介することとなった。児童は好奇心旺盛、珍しいもの、変わったことに飛びついてくる。やる気満々のみんなにビー玉を配り、ゴロン、ゴロンの「おさんぽトコトコ」を試してみた。「おもしろいね。」「どうしてこうなるのかな。不思議。」と楽しんでいた。友だちの発見を知り、「すごい」と感じたことも1年生にとっての鑑賞といえる。



ゴロンゴロンと動く様子
を見る子どもたち

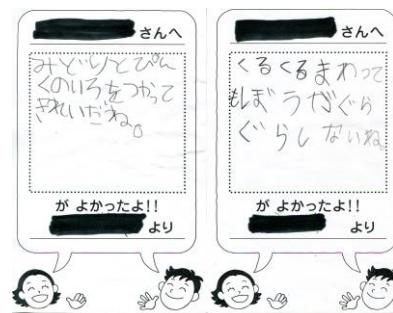
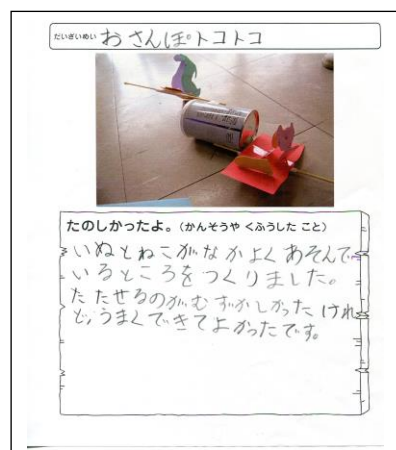
(5) 制作途中での鑑賞

児童は制作途中でいろいろなことに気付くが、何分も時間をかける制作途中での作品紹介や工夫の発表は行わなかった。1年生にとって大事なことは、自分の世界に浸って、自分の作品を集中して作り上げること、その手を止めさせて集めたところで、自分の作品が気になってしまい、集中して聞くことは難しい。そこで気付いたこと、紹介したいアイデアの紹介は数秒の話におさめ、活動の流れを止めないようにした。

(6) 制作した作品の紹介

自分の作品を使ってみんなで遊んだ。動くおもちゃ作りの場合、飾っておくよりも動かしたときのおもしろさにこそ値打ちがある。動かしてみると、二つの飾りの組み合わせの楽しさが数倍になって伝わってきた。遊びの後は、一人一人の作品の紹介を行った。順番に転がしてみせる。友だちはその作品について「よかったねカード」を渡す。カードにそれぞれの作品に対する一言を記入するので、一つ一つをじっくり見て作品のよさを見つけようと取り組むことができた。友だちからももらったカードを見て、自分の作品が認められた喜びを得、次への意欲へとつながっていく様子も感じられた。友だちからももらったカードは、作品カードの裏に貼付して残せるようにした。工作の場合、そのときだけ楽しんで消えてしまうことが多い。けれども、写真に撮って残しておくことにより、いつまでも振り返ることが可能になる。

作品カード



よかったよカード

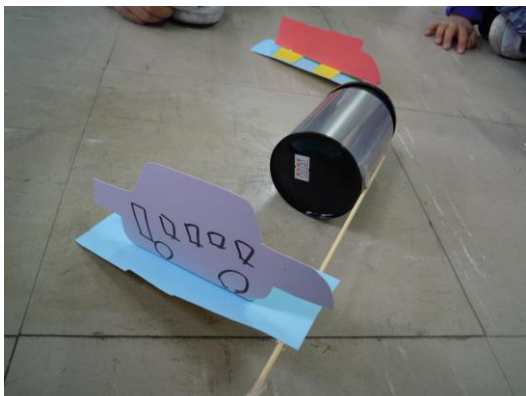
4 成果と課題

1年生の児童は、今回の学習で初めて動くおもちゃを作った。箱などを組み合わせたり、飾りを付けたりして動かないものを作ることも大好きだが、自分が作ったものを動かして遊ぶということに喜びを感じることができた。材料にこだわったからこそ、児童の思い描いたものに近づけることができたといえる。

様々な場面で1年生なりの鑑賞ができたから、友だちの作品に刺激を受けて、一層楽しい作品に仕上げることができた。友だちの力がいかに大切かを実感した。また、動くおもちゃの鑑賞会では、一緒に遊ぶ楽しい時間を設定し満足感を得てから一人一人の発表を行ったので、落ち着いて友だちの発表を聞くことができたと考える。

今回準備の時間が足りなかったため、ガムテープの芯を使うことができなかった。茶筒よりも直径が長いので、もっと大きな動きが見られたはずなのに残念だった。また、回転する部分が茶筒の模様剥き出しだったところも、作品としての美しさにかけてしまっているのでも、そこも見本に加えておくべきだったと後悔している。充実した作品を作っていくためにも、しっかり見通しをもって、大事なことを抜けなく取り組んでいくようにしていきたい。

《児童の作品》



厚紙で作った飾りなので、1枚でもしっかり立っている。



魚を作って飾った。2つも魚を乗せた。



二つに折って飾りを作り、立つようにした。



土台の紙が長いので、引き摺りながら動いていく。